

令和5年度 学校法人静岡理工科大学 星陵中学校・高等学校 自己評価 学校関係者評価

学校関係者評価

※評価は、以下の基準に従い、各項目ごとに5段階で客観的に評価してください。

- 5 : 最も良好
- 4 : ほぼ良好
- 3 : 普通
- 2 : やや不良
- 1 : 不良

どのような学校を目指すのか		校訓「誠実な心でことにあたる 友情の和を広げる 厳しさを自ら求める」の実践をとおり、比較優位性の高い「選ばれる学校」となる。			学校関係者評価										
基本方針		1 健全な運営体質を維持するため、教員の情報収集能力とマーケティングスキルを高める 2 知識・思考力を養う質の高い授業・講座を実施し、進学校として地域から評価を得る 3 時代が求める教育を展開し、急激な社会・価値観の変革に伴う、新たな課題に挑戦する 4 「メカバース」「Next Innovator」「SDGs第3段階」への挑戦を内包した教育を展開する 5 学園力を集結させ、総合学園ならではの新たな教育スタイルを提案し実践する													
昨年度の成果と課題		本年度重点目標		本年度重点施策		達成状況		学校関係者評価							
評価項目	具体的目標	具体的方策	自己評価		成果・次年度への主な課題	評議員A	評議員B	評議員C	同窓会	地域住民	地元企業関係者	教育関係者	平均		
			評価	平均											
総務部	健全な運営を維持するため、目標定員を獲得する。	PDCA・OODAによる募集活動を展開する。 星陵の強みを最大限にアピールする広報活動を行う。	4 4	4.0	志願状況の調査・対応を迅速に行う。 部活動等をアピールする機会をつくる。	5	5	5	4	4	5	5	4.7		
	星陵に対する期待値・満足度を高める。	進路実現に有効な教育行事を研究・検討する。 外部講師による講話・講座を新規実施する。	4 4		関係者や企業・大学等との連携を検討する。 外部講師による講話・講座を精選し、実施を計画する。	5	5	4	4	5	5	5	4.7		
	高等学校学則定員400名、中学校学則定員60名の入学者を獲得する。	ホームページをリニューアルしユーザーの利便性を向上させる。 効果的な広報媒体を作成し、時宜を得た情報発信に努める。 学校説明会や見学会を丁寧に運営し本校への理解を深めてもらう。	3 3 3		3.0	中学校については定員60名を確保できた。 高等学校については定員400名を確保できなかった。 募集対象の範囲を広げ域内への浸透度を一層高める。	5	5	4	4	4	4	5	4.4	
総務課	既存の典式や行事について内容・実施の有効性を再検討する。	周囲の状況に応じて柔軟に対応できるようにする。 災害時に備え、避難訓練を通じて避難経路の確認を常に行う。	4 4	4.0	気温や感染症の状況に合わせて対応していく。 全職員、生徒共に避難経路図や案内表示を常に意識する。	5	5	5	4	5	4	4	4.6		
図書課	「S×P教育」と「Global教育」を展開し、他校との差別化を図る。	購入図書の選定に教職員のならず生徒からの意見を吸い上げる。 POPコンクールなどを進学の武器となるべく深める。	4 4		委員会の生徒経由でクラスへの広がり計画する。 ビブリオバトルなども行っていく。	5	5	4	4	4	4	4	4.3		
管理課	「メタバース」「Next Innovator」「SDGs複雑性の理解」の調査・研究をまとめる。	他校や企業の取り組みを調べる。 必要なICT機器を充足させる。	4 4	4.0	他校や企業の取り組みを参考に、本校の導入方法を考える。 ICT教育に必要な機器の整備、各端末の設定を行った。	5	5	4	4	5	5	5	4.7		
教務部	「S×P教育」と「Global教育」を中心とした教育活動を展開し心躍るような学園文化を醸成する。	SDGs第3段階の活動を展開し、本校独自の教育スタイルを実践する。 机上の学習とPeerLearningを同時展開し、非認知能力を養う。	4 4		探究活動を多種多様な分野に拡充させていく。 個別最適な学びと協同的な学びの実現を図る。	5	4	4	4	4	5	5	4.4		
教務課	ICT機器の効果的な活用・研究および探究的な学習を通して授業改善を図り、充実した学習環境を整える。	Edtech教育の推進と探究活動を通して、主体的に学ぶ姿勢を養う。 新課程による学習計画及び評価を適切に運用・検証し、改善する。	4 4	4.0	ICT機器の効果的な活用を共有し、全体の授業力向上を図る。 各教科の年間指導計画と観点別評価の運用状況の検証を行う。	5	5	5	4	5	5	4	4.7		
教育相談課	カウンセラーとの連携を強化し、生徒個々の理解を深め、生徒が安心して生活できるようにする。	学校が実施している活動の情報発信を適宜行う。 生徒や保護者の助けになるように、カウンセリングを円滑に運営する。	4 4		カウンセリング日程と役立つ情報発信を行う。 カウンセリングを身近なものとして捉えられるような運営にする。	5	5	4	4	4	5	4	4.4		
法人内連携教育推進課	法人内大学、専門学校と連携した教育活動を展開する。	高大・高専連携教育を通じて、参加者の質、意欲を向上させる。 高大・高専教育を再構築し、より多くの生徒に恩恵のあるものとする。	4 4	4.0	進学後の学習をスムーズにし、適切な学科選択の参考とする。 法人内連携教育を生徒のニーズや時代に合わせ見直しを行う。	5	5	4	4	5	5	5	4.7		
グローバル教育推進課	英語4技能を育成しつつ、グローバル社会を生き抜くスキル（非認知能力）を養う環境を整える。	校内におけるグローバル教育活動を充実させる。 世界大会レベルの研修会や大会に出場する。 海外提携校との生徒往来を実現する。	4 3 4		3.7	SEI7プログラムや海外連携校・外国人講師との交流を実施した。 より規模・レベルがアップした大会などへの参加を目指す。 本格化した海外との往来をさらに充実させていく。	5	5	4	4	4	4	5	4.4	
教科	国語	国語で的確に理解し効果的に表現する資質・能力を育成するために、知識及び技能、思考力、判断力、表現力、学びに向かう力、人間性を育成する。	知識・思考力を養う授業を展開する一助としてSTEAM教育を展開する。 Peer Learningを展開し、非認知能力を養う。	4 4	4.0	教材+αで、生徒の思考を深める授業を行う。 生徒間での学びによりコミュニケーション力をより高める。	5	5	4	4	5	4	5	4.6	
		社会的な見方・考え方を働かせ、課題を追究したり解決したりする活動を通して主体的な資質・能力を育成する。	非認知能力を養うための授業を展開する。 ICT機器を積極的に活用し、知識・思考力を育成する。	4 4		4.0	生徒間の交流を通して視野を広げる。 ICT機器の活用を通して、主体性及び技術の向上を図る。	5	5	4	4	4	4	5	4.4
	数学	事象を数量や図形及びそれらの関係などに着目して捉え、論理的、統合的・発展的、体系的に考えた授業展開を行う。	思考力を養う授業の展開し、数学的な見方・考え方を働かせた数学的活動を実践する。 Edtech教育を学び、課題発表や対話的な学びを実践する。	4 4	4.0	教員間で新課程に基づいた指導内容を共有し実践する。 ICT機器を活用し、視覚的・協働的に学びを深めた。	5	5	4	4	5	5	5	4.7	
		ICTを効果的に活用して、日常現象に潜む理科の事象や協同作業を授業に取り入れ非認知能力を高める。	スタディサプリを活用し、学びなおしや課題の取り組みにより学力向上を促進する。 授業にPeerLearningを取り入れ、OODAループを回しながら課題解決の糸口を模索する。	4 4		4.0	日々の学び直しに活用し、学習習慣と理解の定着を図る。 実験結果の分析をグループで行うことで学びを深める。	5	5	5	4	5	5	5	4.9
	理科	心と体を一体として捉え、運動や健康・安全について理解するとともに、生涯を通じて豊かなスポーツライフを継続するための資質・能力を育成する。	PeerLearningの授業展開し、生徒の思考・判断・表現力を高める。 ICT機器を活用し主体・対話的な学びに繋げ、課題を解決する力を高める。	4 4	4.0	仲間と学び非認知能力を高め、視野を広げる授業展開をする。 ICT機器を積極的に活用し、主体性及び技術の向上を図る。	5	4	4	4	4	4	5	4.3	
		主体的に取り組み、造形的な見方・考え方を働かせ、生活や社会の中の美術文化と関わる資質・能力を育成する。	生活や社会の中の美術文化と関わるような題材設定・授業計画の工夫をする。 ICT機器等を工夫・活用することで、課題把握・主体的姿勢の向上を図る。	4 4		4.0	地域社会と繋がる題材を設定する等の取組ができた。 課題把握や技術を向上させるためのICT機器の活用ができた。	5	5	4	4	4	4	5	4.4
	書道	書の表現方法や多様性を理解し、自筆能力の向上を図る。書を愛する心情を育むとともに、感性を高め、心豊かな生活を創造していく態度を養う。	古典臨書を通して、時代性・多様性を学び、様々な書法を習得する。 実社会で行われている書式や様式について理解し書写力を高める。	4 4	4.0	臨書学習から自筆創作への学習姿勢を学習する。 実用書写力能力の向上、行書体のリズム構成の体得に努める。	5	5	4	4	4	4	4	4	4.3
		英語	英語4技能を育成する。	知識とともに思考力を養う授業を展開する。 実用英語技能検定等に積極的に参加させる。		4 4	4.0	生徒間のコミュニケーションを促す授業を展開する。 個々の受験級に応じた活動を支援する。	5	5	5	4	5	5	4
	家庭情報	学んだ知識や技術を生かして、持続可能な社会をつくる暮らしの担い手となる。	生活の充実向上を図る能力と実践的な活動を行う。 家庭や地域の生活課題を主体的に解決する力を身に着ける。	4 4	4.0	生活の「創造」「自立」「共生」の柱を軸に授業展開を行う。 暮らしと社会の課題を結び付け、新しい価値観や行動をつくる。	5	5	4	4	4	4	5	4.4	
		生徒の情報リテラシーと情報活用能力を高める授業を展開する。	プログラミング実習を通して生徒の実用的な情報活用能力を高める。 提出課題を通して生徒の教科横断的なアプリ活用スキルを高める。	4 4		4.0	情報活用能力を活用し、具体的な問題の発見・解決を行う。 情報活用スキルを行事や他教科との連携を強化し育成する。	5	5	4	4	5	5	5	4.7

指導部	超有名国立・私立大学合格者を増加させ、地域NO.1の進学校を目指し、県内有数の学園としての教育力をさらに向上させる。	質の高い、授業・講座を実施し「知識・思考力を養う授業」を展開する。	4	4.0	知識を習得し、PBLによって思考力を高めるよう努めた。	5	5	5	4	5	5	4	4.7
		英語4技能を育成するための教育を展開する。	4		20分の挑戦により4技能を高め、資格取得率を高めた。								
		G-STEAM教育の実践によって、より深い研究活動を展開する。	4		美育教育を通じてG-STEAM教育の実践することができた。								
大学進学指導課	変革する様々な入試形態に対応できる質の高い教育を実践し、地域における進学校としての地位を確立する。	『新・三種の神器』に対して、「メタバース」「Next Innovator」の調査・研究を行う。	4	4.0	イベントでメタバースを体験し、その可能性を確認した。	5	5	4	4	4	5	4	4.4
		新たな課題に果敢にチャレンジしようとするNext Innovatorを育成する。	4		高校生Ringを通じて物事の本質探求を実施した。								
		ICT機器を活用し思考力、主体性を養う質の高い授業、講座を行う。	4		各教科でICT機器を活用し生徒主体の授業実践に取り組んだ。								
進路課	就職希望者に対して社会人意識を指導し、地域貢献できる人材に育て優良企業に就職させる。	新課程における入試動向を入手し、的確な分析を発信する。	4	4.0	最新の大学入試情報や動向を教員、生徒に発信した。	5	5	4	4	5	5	5	4.7
		授業力向上のための研修を行い、教員の資質向上を図る。	4		大学入試分析や研修を通じて授業力を向上させた。								
		ガイダンスを開催し、企業情報を随時提供していく。	4		説明会や企業訪問で知り得た情報を生徒に的確に提供した。								
生徒指導課	生徒が安心・安全に学校生活を送れる環境をつくる。	担任と常時情報交換を行い、生徒の適性を把握する。	4	4.0	生徒の情報交換を重ね、生徒の適性を把握し内定に導いた。	5	5	5	4	4	5	5	4.7
		いじめ防止対策法に則り、意識の高揚を図り、人権尊重の精神を涵養する。	4		各学期のアンケートによりいじめの早期発見・解決を図った。								
		指導を通して、ルールやマナーを徹底し、社会規範意識を向上させる。	4		星陵生として品位ある生活態度を身につけさせた。								
保健体育課	学校全体のポストコロナを先導するとともに、怪我・事故から生徒を守るための対策をとり、安心して学ぶことのできる環境を整える。	校内の環境整備や体育施設や器具の点検、メンテナンスを行う。	4	4.0	部活動顧問や委員会と連携し、体育施設等の点検を行った。	5	5	4	4	5	4	5	4.6
		行事や検診等の実施時期や方法を見直し、安全に実施する。	4		行事や検診等の実施時期や方法を検討し、実施した。								
		STEAM教育をPBLの手法で実施する探究学習に体育的行事も付加する。	4		探究学習に体育的行事を追加し実行した。								
中学部	主に各教科の授業で育成される旧学力と、探究学習（美育行事）で育成される新学力の相乗効果を目指す。	学校行事での新学力育成の手法を検討するためOODAループを回す。	4	4.0	学校行事で生徒の意見を追加した改善案を検討実施した。	5	5	4	4	4	5	5	4.6
		高校生Ringに参加し、指導を実施する。またその活動を正しく記録する。	4		高校生Ringに参加し問題解決に取り組む探究学習を実施した。								
		基礎学力+E83:Q84を定着させるための指導を実施する。	4		スタディサブリを活用し、学習の定着、情報収集を行った。								
高校1年部	積極的に探究学習を行う。また新課程共通テストや大学入試に向けての基礎作りを行う。	高校生Ringに積極的に取り組み、入試に繋げる。	4	4.0	高校生Ringでグランプリを受賞し、他の生徒に刺激を与えた。	5	5	4	4	4	5	5	4.6
		授業・講座・スタディサブリを活用し、基礎学力を定着させる。	4		スタディサブリを一般受験生徒の個別指導に活用する。								
		選抜方法別に対応した個別指導を、受験指導の軸とする。	4		教員間の連携を密に図り、個別指導を充実させた。								
高校2年部	多様な知識に触れ、広い視野で物事を判断できる力を養い、2025年度入試（新入試）に対応できる生徒を育成する。	進路に関する情報を収集・共有しながら教員間の連携を密に図り、受験指導を展開する。	4	4.0	入試を多面的に分析し、進路指導を更に充実させる。	5	5	5	4	5	5	5	4.9
		行事や検診等の実施時期や方法を見直し、安全に実施する。	4		行事や検診等の実施時期や方法を検討し、実施した。								
		探究学習に体育的行事を追加し実行した。	4		探究学習に体育的行事を追加し実行した。								
高校3年部	生徒個々の進路希望に寄り添った丁寧な進路指導を軸に、生徒の進路目標を達成する。	選抜方法別に対応した個別指導を、受験指導の軸とする。	4	4.0	教員間の連携を密に図り、個別指導を充実させた。	5	5	5	4	5	5	5	4.9
		進路に関する情報を収集・共有しながら教員間の連携を密に図り、受験指導を展開する。	4		入試を多面的に分析し、進路指導を更に充実させる。								
		探究学習に体育的行事を追加し実行した。	4		探究学習に体育的行事を追加し実行した。								
				平均	3.8								4.6

評価委員のコメント

- ・星陵中学校から6年にわたり、とてもきめ細かく学習面・生活指導・進路選択指導、そして部活動での指導と、本当に感謝でいっぱいです。

これは私の子どもだけではなく、在籍されている生徒さんに対しても同様で、「解なき時代を生き抜く力」の基礎、そして自ら考え行動する力を育てていただける学校です。

そして英語をはじめ、コミュニケーション力を高めるプレゼンの機会も多く、これからの時代で生き抜く力につながります。

また、様々な実体験を積ませて頂ける学校です。校長先生はじめ諸先生がとてもアイデアマンで、柔軟な発想力と行動力を持ち合わせて、新型コロナウイルスに悩まされた3年間も、

その時その時、可能な最良の方法を考え、実行して頂き、深い学びと貴重な学友との体験・経験を積むことができました。

それに含まれると思いますが、多種多様な部活動があり、生徒さんに多くの自分を磨き輝かせる機会と場を与えてくれる学校です。そこで指導にあられる指導者の方々にも大変感謝しております。

本当に6年間、この星陵に入り、学ばせて頂き大感謝でした。ありがとうございました。

- ・英語力の向上をはかり世界で通用できるような教育が行われている。
- ・自主的に行動することを教えるのではなく、自分で考えるように導いている。
- ・詰め込む教育ではなく吸収させる教育がなされている。
- ・今年度も自転車通学の状況は、交通ルールを守り、マナーよく通学している。そのため、トラブルが発生することもない。
- ・令和5年度の進路実績を見ると、医学部・医学科の合格者が多く、また、国公立や有名私立大学の合格者が増加し、大変ありがたくうれしく思う。先生方の生徒に対する日々の熱意と努力のたまものだと思う。

先生方が教育に力を注げるのは、学校長の教員を大切に思う気持ち、全教職員に伝わっているのではないかと感じます。

- ・中学生、高校生は制服で学校がわかります。その人の行動や話し方で、直接学校に携わってなくてもその学校の雰囲気は伝わります。

星陵中学生、高校生を見かけた方が、「とても良い学校なんですね」とお話しされていたことがありました。その言葉を聞いて、こちらも誇らしく思いました。

学業のみならず、生活面でも、先生方のご指導が行き渡っているのだなと感心いたしました。

- ・学校行事や各種大会などが自粛する中でしたが、徐々に回復し始めたものと思います。星陵中学・高等学校における各カリキュラムは、目標と方向性が明確にされておりますので、生徒の目標とするものが見えています。

学校側の指導や方針も素晴らしいものがあり、大勢の生徒を指導する中で、個々の才能を如何に伸ばすかが図られたと思います。

- ・コロナ禍の影響もあり、学校や部活動・PTAなどコミュニケーションの場が、少ない気配もありましたが、コロナ前の状況にすぐに戻る事は難しい面もあろうかと思いますが、

学校側と保護者の連携も大切なものとなりますので、生徒自身の向上と地域社会の連携をとりながら、星陵に相応しいグローバル教育をお願い致します。